

災害対策本部および災害調査対応本部設置訓練を行いました（2017/10/11）

テーマ：災害対策本部、災害調査対応本部、事業継続計画（BCP）、電気自動車（EV）
場所：災害科学国際研究所(仙台市青葉区)

10月11日(水)午後、当研究所において、宮城県沖地震及びそれに伴う津波の発生を想定した災害対策本部及び災害調査対応本部の設置訓練を実施しました。両本部の設置訓練は、一昨年に実施して以来、2回目の実施となります。本訓練は、当研究所の消防・防災委員会が中心となって企画及び準備を行い、また、災害対策本部設置訓練は、今年3月に策定し、5月に一部修正した当研究所の「事業継続計画（BCP）」の習熟と内容の改善を目的として実施されました。

当日は、教職員・学生が40名、外部のオブザーバーが1名参加しました。訓練の想定は、早朝4時に宮城県沖で最大震度5強の地震（前震）が発生し、初動担当教員や地震・津波研究者が当研究所に参集した後、7時15分に仙台市内で震度6強を観測する宮城県沖の地震（本震）及び津波が発生し、本震発生1時間後の8時15分に全教員及び事務部職員が参集するというものです。当日の訓練では、想定時間と5時間の差において、実時間13時15分に大多数の教職員が参集したものと実施しました。

まず、災害対策本部設置訓練として、当研究所BCPに基づき、初動参集者（として指名された者）が、本部を設置する2階の部屋に集まり、会議スペースの設営、備品の持込などを行いました。続いて、当研究所運営会議メンバー及び事務部係長以上による災害対策本部会議を開きました。今回は、大学本部が各事業場に示した訓練案に大筋沿って行い、最初は、研究所長（本部長）が未参集の状況を想定し、BCPで定めた代理者が進行役を担いました。

主な会議内容は、次の通りでした。

- 状況付与に基づく各班長からの被害報告や安否の状況の報告
- 大学本部から求められた重大被害至急報告のとりまとめ（負傷者の報告）
- 最後の一人まで学生・教職員の安否を確認する方法の確認

続いて、研究所長（本部長）が到着したとの想定に移り、当研究所が災害発生により緊急に調査等を行う必要性が生じた場合に設置する「災害調査対応本部」設置の宣言を受けて、同本部の会議を開催しました。同本部は、地震・地殻変動班、津波調査班、地震被害調査班、地すべり・地盤災害班、情報分析班、民間部門調査班等によって構成されています。

主な会議内容は次の通りでした。

- 各班から、地震、津波のデータ及び初期的分析の報告や、把握した各種被害の状況報告
- 各班の近隣地域や市内の現地調査の計画の発表及び役割分担
- 事務部からの現地調査の安全確保等の留意事項の提示
- 今後の調査の対応方針の議論と研究所長からの総括指示

なお、本訓練では当研究所は停電している状況を想定し、自家発電装置から給電されるコンセントのみを使用するとともに、当研究所が日産自動車から提供を受けている電気自動車（EV）から、交流100Vを屋内に引き込み補足電力として使用しました。

今回の訓練を通して得られた課題として、災害対策本部会議等を設置する部屋のより良いレイアウト、照明が停電時に自家発電から給電されないことを踏まえた照明機材の設置、受け入れた支援物資を置く場所の決定、当研究所がある青葉山新キャンパスの周辺の施設との防災面の連携、教員が災害調査等で外出する際の管理下学生・教職員の安否確認の引継ぎ、当研究所の調査成果等のメディアや外部への発信方法等、多くの事項が参加者から指摘されました。今後、消防・防災委員会をはじめとして当研究所内で対応を検討し、当研究所のBCP等を改善することとしています。



本部会議設営訓練の様子



非常用電源として使用した EV



災害対策本部会議（研究所長不在を想定）



災害調査対応本部会議



今後の災害対策本部での対応についての議論



今後の災害調査の対応方針についての議論